

公民館“報”

大正7年に流行ったスペイン風邪に学ぶ

全国的に新型コロナウイルスの感染者が増えていることに対し、100年前に流行ったスペイン風邪の脅威と対応、日常生活の変容、そして社会経済の変化に学ばなければならない（大分合同新聞は8月11日、当時の新聞記事を紹介。明野校区公民館は8月1日、大分県史・近代篇Ⅲより引用報告）

それによると「スペイン風邪が収束するまでに数年を要したこと」「人々が流感を恐れぬことが間違い」「何度も油断を戒め」等々の記事が目につく。

また、当時の知事は“論告”を出し、「近時流行の悪性感冒は感染が速く病勢は熾烈で凄い。予防警戒を怠るな」（意識）と訴えているが、この時、県下の罹患者数は88,505人に達し、児童・生徒は34,110人が倒れた（うち660人が死亡）と「大分県史・近代篇Ⅲ」には記録されている。

「今回の新型コロナの流行は、社会に不可逆的な変化をもたらし、中長期的に見れば、コロナ「前」と「後」では、まったく異なる世界になると確信している」（出口治朗・立命館アジア太平洋大学学長）

明野地区・大きな行事は困難！

コロナ禍の状況で、多くの人が集まる行事、体育祭、祭り、芸能祭等の大きな7つの行事が今年は実施困難となりました。

しかし、そこで、立ち止まらず、思考停止せず、知恵を出し工夫して、コロナ禍の中でも通常行事に替わるものを推進することが要請されます。

それは、「新しい生活様式」の定着とコミュニティの活性化、生活に潤いをもたらす地域行事など、コロナ禍を乗り越える組織力の発揮です。

各団体はそれぞれの役割を自覚し住民の負託に応え、自治会連合会の大方針を踏まえ、その取り組みを始めています。

恒例の「芸能祭」は中止！

CATV（ケーブルテレビ）芸能祭を検討へ

例年、アクロス大ホールを借りて開催する芸能祭は、コロナ禍の三密対策取れず、観客を集めた舞台出演は不可能と判断されます。

したがって、自治会連合会の大方針に沿って、本年は中止いたします。

しかし、各団体それぞれ状況に合せ稽古を始めています。そこで、個別にCATVで撮影し編集放映する「ケーブルTV芸能祭」として披露する方法や、住民は居間でくつろぎながら視聴、楽しむ手だてについて検討を進めます。これから、アクロス、出演団体やCATVの関係者と折衝を始めます。